

## スーグラ錠 25mg、スーグラ錠 50mg

### 【この薬は？】

販売名	スーグラ錠 25mg Suglat Tablets 25mg	スーグラ錠 50mg Suglat Tablets 50mg
一般名	イプラグリフロジン L-プロリン Ipragliflozin L-Proline	
含有量 (1錠中)	イプラグリフロジンとして 25mg	イプラグリフロジンとして 50mg

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、選択的 SGLT2 阻害剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、腎臓の SGLT2※のはたらきを阻害して尿と一緒に糖を排出することで血糖値を下げます。

※SGLT2：腎臓で糖を再吸収する役割をもつたんぱく質です。

- ・次の病気の人に処方されます。

#### 2型糖尿病

#### 1型糖尿病

- ・この薬は、糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分に行ったうえで効果が不十分な場合に限り、医師の判断により処方されます。
- ・腎臓に重度の障害がある人、または透析中の末期腎不全の人は、この薬を使用することができません。
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減した

りすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

### 【1型糖尿病に使用する場合】

- ・この薬は、適切なインスリン治療を十分に行ったうえで、血糖コントロールが不十分な場合に限り、医師の判断により処方されます。
- ・この薬は、インスリン製剤と併用されます。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・過去にスーグラ錠に含まれる成分で過敏症のあった人
  - ・重いケトosis状態（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸）の人、糖尿病性の昏睡状態の人、糖尿病性の昏睡状態になりそうな人
  - ・重い感染症にかかっている人、最近手術をした人、または手術の予定がある人、大怪我をしている人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
  - ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
  - ・栄養状態の悪い人、著しくやせている人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分にとれていない人、衰弱している人
  - ・激しい筋肉運動をしている人
  - ・飲酒量が多い人
  - ・尿路の感染症にかかっている人、性器の感染症にかかっている人
  - ・脱水をおこしやすい人（血糖コントロールが極めて悪い人、高齢の人、利尿剤を使用している人）
  - ・腎臓に中等度～重度の障害がある人、または透析中の末期腎不全の人
  - ・肝臓に重度の障害がある人
  - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

### ●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。  
肝臓に重度の障害がある人は、その症状や状態によって低用量から飲み始めることがあります。  
通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

### 【2型糖尿病の場合】

販売名	スーグラ錠 25mg	スーグラ錠 50mg
1回量	2錠 *	1錠 *
飲む回数	1日1回朝食前または朝食後	

\*1回50mgを服用しても効果不十分な場合には、1回100mgまで増量されることがあります。

## 〔1型糖尿病の場合〕

この薬は、インスリン製剤と併用されます。

販売名	スーグラ錠 25mg	スーグラ錠 50mg
1回量	2錠 *	1錠 *
飲む回数	1日1回朝食前または朝食後	

\*1回 50mg を服用しても効果不十分な場合には、1回 100 mgまで増量されることがあります。

### ●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

### ●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。指示された時間に飲み忘れたら、1回とばして、次の指示された時間に、1回分飲んでください。

### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・低血糖症状があらわれることがあります。低血糖症状（お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下）があらわれた場合は、通常は糖質を含む食品や砂糖をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖を飲食してください。この薬を使用するにあたっては、患者さんおよびご家族の方は、これらのことを十分に理解できるまで説明を受けてください。
  - ・インスリン製剤、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤またはGLP-1受容体作動薬と併用した場合、低血糖症状がおこりやすくなるため、医師の判断で、インスリン製剤、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤、GLP-1受容体作動薬の使用量が減らされることがあります。低血糖症状の一つとして意識の低下をおこす可能性もありますので、糖尿病薬を飲んでいることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。
  - ・過剰な糖が尿と一緒に排泄されるため、尿路の感染症（尿が近い、残尿感、排尿時の痛みなど）や性器の感染症（陰部のかゆみ、痛みなど）をおこし、腎盂腎炎（じんうじんえん）、外陰部および会陰部の壊死性筋膜炎（がいいんぶおよびえいんぶのえしせいきんまくえん）（フルニエ壊疽（フルニエえそ））<sup>\*1</sup>および敗血症などの重篤な感染症に至ることがあります。このような症状があらわれた場合には、医師に相談してください。この薬を使用するにあたっては、患者さんおよびご家族の方は、これらのことを十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ※1 壊死性筋膜炎（フルニエ壊疽）：皮下組織の細菌感染で、筋膜にまで急速に広がって組織を破壊し、生命を脅かすことがある疾患です。特に陰部に患った場合「フルニエ壊疽」と呼ばれます。性器周辺の痛み、赤みまたは腫れ、高熱がある場合はただちに医療機関を受診してください。
- ・尿の量が増えたり、排尿回数が増えたりすることがあります。脱水があらわれることがあるので、適度な水分を補給してください。
  - ・脱水の疑われる症状（喉が渇く、体重が減る、立ちくらみ、めまい、疲れやす

い、体に力が入らない、手足がつる) があらわれた場合は、医師に相談してください。

- この薬の作用により過剰な糖が尿と一緒に排泄されるため、それに伴って脂肪酸の代謝が亢進し分解物であるケトン体が増え、ケトアシドーシス<sup>※2</sup>があらわれることがあります。ケトアシドーシスについての注意は、次のとおりです。

(1) 吐き気、嘔吐(おうと)、食欲がない、腹痛、過度な口渇、からだのだるい、息苦しい、意識の低下などの症状が認められた場合には、ただちに医療機関を受診してください。血中または尿中ケトン体を含む検査が行われることがあります。

(2) 特に、1型糖尿病の人、インスリン分泌能が低下している人、インスリン製剤を減量・中止した人、過度な糖質摂取制限を行っている人、食事が十分にとれていない人、感染症にかかっている人や、脱水症状のある人ではケトアシドーシスをおこしやすいので、注意してください。

(3) この薬を使用するにあたっては、患者さんおよびご家族の方は、次の点について十分に理解できるまで説明を受けてください。

- ケトアシドーシスの症状(吐き気、嘔吐、食欲がない、腹痛、過度な口渇、体がだるい、息苦しい、意識の低下など)。
- ケトアシドーシスの症状が認められた場合には、ただちに医療機関を受診すること。
- 血糖値が高くなくてもケトアシドーシスがおこる可能性があること。

1型糖尿病の人は、上の3点に加えて、特に、ケトアシドーシスがおこりやすいことについても説明を受けてください。

※2ケトアシドーシス：脂肪酸がエネルギー源として使われるときに、分解物であるケトン体という物質が血液中に溜まると、血液が酸性に傾きます。その状態を「ケトアシドーシス」といいます。

- この薬を使用中は、定期的に血糖などの検査が行われます。この薬を3カ月使用しても十分な効果が得られない場合は、より適切な治療に変更されることがあります。
- この薬を使用中は、定期的に腎機能の検査が行われます。
- 高所作業や自動車の運転中などに低血糖をおこすと事故につながりますので、特に注意してください。
- 過剰な糖が尿と一緒に排泄されるため、この薬の使用中は尿糖検査が陽性になります。尿糖検査を受ける場合は、医師にこの薬を飲んでいることを伝えてください。
- 妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- 授乳している人は医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

#### 〔1型糖尿病の場合〕

- この薬はインスリン製剤の代わりにはなりません。インスリン製剤の使用を中止すると急激な高血糖(体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える)やケトアシドーシス(意識の低下、吐き気、嘔吐、腹痛など)があらわれることがあるので、この薬の使用にあたっては、インスリン製剤の使用が中止されることはありません。

- ・インスリン製剤の併用にあたっては、低血糖がおこりやすくなるため、医師の判断で、インスリン製剤の使用量が減らされることがあります。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。





重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
腎盂腎炎 じんうじんえん	寒気、ふるえ、発熱、背中を叩くと痛い
外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎 (フルニエ壊疽) がいいんぶおよびえいんぶのえしせいきんまくえん (フルニエえそ)	陰部の痛み、発熱、体がだるい、陰部の皮膚が赤～赤紫色に腫れる、痛みを伴う水ぶくれができたれたりする
敗血症 はいけつしょう	発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい
脱水 だっすい	喉が渇く、体重が減る、立ちくらみ、めまい、疲れやすい、体に力が入らない、手足がつる
ケトアシドーシス	意識の低下、吐き気、嘔吐、腹痛
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、寒気、ふるえ、発熱、体がだるい、体重が減る、体に力が入らない、ふらつき
頭部	意識の低下、立ちくらみ、めまい、意識の消失
顔面	血の気が引く、顔面蒼白
口や喉	喉が渇く、吐き気、嘔吐、喉のかゆみ
胸部	動悸、息苦しい
腹部	お腹がすく、腹痛
背中	背中を叩くと痛い
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、手足がつる、手足が冷たくなる

部位	自覚症状
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹
生殖器	陰部の痛み、陰部の皮膚が赤～赤紫色に腫れる、痛みを伴う水ぶくれができたれたりする

## 【この薬の形は？】

販売名	スーグラ錠 25mg	スーグラ錠 50mg
PTP シート		
形状	フィルムコーティング錠 	フィルムコーティング錠 
直径	8.1mm	8.6mm
厚さ	3.6mm	3.9mm
重さ	186mg	227mg
色	淡黄色	淡紫色

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	スーグラ錠 25mg	スーグラ錠 50mg
有効成分	イプラグリフロジン L-プロリン	
添加物	D-マンニトール、結晶セルロース、デンプングリコール酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、タルク、黄色三二酸化鉄	結晶セルロース、デンプングリコール酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、タルク、三二酸化鉄、黒酸化鉄

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アステラス製薬株式会社

(<http://www.astellas.com/jp>)

くすり相談センター

電話：0120-865-093

受付時間：9時～17時30分（土、日、祝日、会社休日を除く）